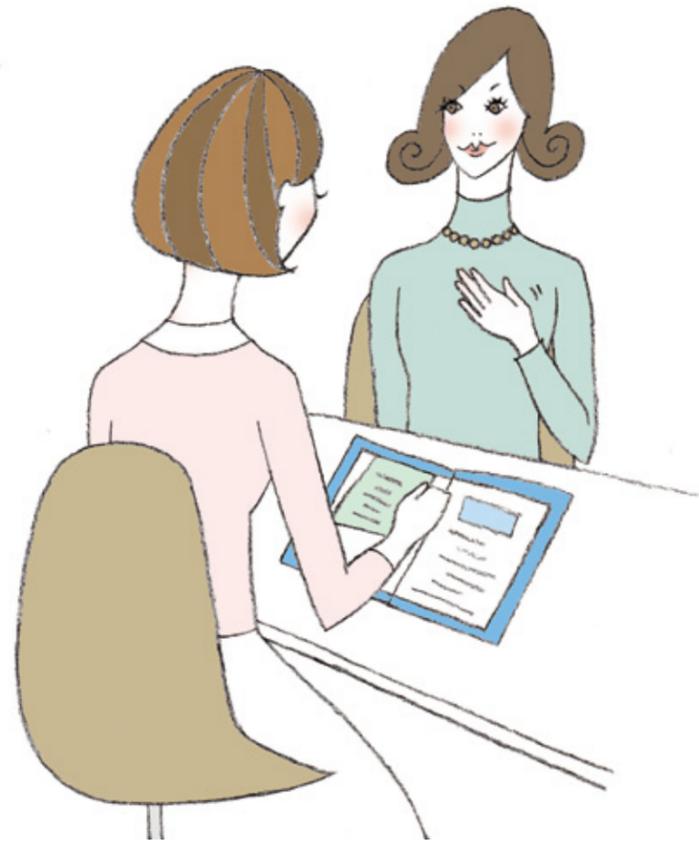


女性の SOS

もしも、がんになったら… 私たちを支えるがん医療

国民の2人に1人がかかり、3人に1人が死亡すると言われるがん。モ
コス世代にとって益々身近な病であり、万が一罹患した場合を考えると医療
に関する知識を備えておくのも重要です。今回は熊大病院がんセンターを
中心に、熊本のがん医療についてご紹介します。



スムーズな治療を目指して がん診療連携パス「私のカルテ」

熊本県全体で取り組んでいる「私のカルテ」は、地域のかかりつけ医とがん診療拠点病院の2人の主治医が情報を共有し、一緒に診療を行うためのノートです。患者自身の日々の記録、お薬手帳や最新の検査データをまとめることで、医師同士の円滑な連携ができ、患者側の負担も減らせます。



「私のカルテ」を持つメリット

- 1 診療計画や病気を、自分自身が理解できます
- 2 かかりつけ医を持つことで待ち時間や通院時間の短縮につながり、負担を軽減できます
- 3 診察の結果や医療者へ伝えたい事などを書き込むことで、大切な記録になります
- 4 共同の診療計画に基づいて診療するため、検査の重複等を避けられます
- 5 県内どこに住んでいても、同じ医療を受けることができます

Q&A

- Q.どなたがんでも使えますか？**
5大がん(胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・肝がん)、男性特有の前立腺がん、女性特有の婦人科がん(卵巣がん・子宮頸がん・子宮体がん)が対象です。
- Q.どうやってもらうのですか？**
まず、がん診療拠点病院の相談支援センターにお尋ねください。専門医が検討して利用した方がいいと判断した時に十分な説明を行い、患者さんと家族の同意を得た上で使用を開始します。
- Q.お金はかかりますか？**
拠点病院の退院時または退院後30日以内の外来受診時に1回のみ(3割負担で2,250円)、さらにかかりつけ医受診時に月1回限度(3割負担で900円)で管理料が発生します。

熊本県「私のカルテ」がん診療センターHPで、詳細を見ることができます。

患者の心の拠り所 + 熊大病院の場合 がん相談支援センターとは

熊大病院のがん相談支援センターでは、がん看護専門看護師・安達美樹さん(写真左)とがん専門相談員・上井真理さんが常駐し、1ヶ月に約350件の相談を受けています。「[がんです]と言われたら、頭が真っ白になるのは当然です。心配しないで、一緒に頑張りましょう」(安達さん)「悩みは人それぞれです。少しでも気持ちを吐き出せる場所として、気軽に立ち寄ってください」(上井さん)。



こんな悩みがあったら相談を

- ・医者からの説明や治療内容が分からない
- ・セカンドオピニオンを受けたい
- ・今後の治療や手術にかかる金額は？
- ・がんサロンや患者会に参加したい
- ・仕事をどうしたい？
- ・自分のがんを家族にどう伝える？
- ・退院後の自宅での暮らしが不安……
- ・先を考えると気分が落ち込む……

Tel.096-373-5676

- ◆相談日：月～金曜(土・日曜、祝日を除く)
- ◆時間：8時30分～17時15分
- ◆方法：面談、および電話相談
- ◆料金：無料



※秘密厳守。他院で診断を受けた場合でも相談可。

がん相談支援センターと私のカルテの重要性

熊大病院のがんセンターはさらに、患者ごとに発見の経緯や進行度などを記録するがん登録センター、外来での最適な抗がん剤治療を目的とした外来化学療法センター、がんに関する様々な相談を受けるがん相談支援センター、そして生活の質を下げずに自宅での穏やかな緩和治療をサポートする緩和ケアセンターと、4つの専門分野に分かれています。その中で自分ががんと診断されたときに一番身近に利用したいのが、がん相談支援センターです。「告知された瞬間から患者さんが持つ、治療・お金・仕事・家族などの不安や悩みを総合的にサポートしてくれる場所。我々医師にとっても大変心強く、初診時に患者さんに立ち寄るようにすすめたり、告知の際に専門ナースに同席してもらったりしています」と岩瀬センター長。特に熊大病院のがん相談支援センターには、県内に5人しかいないがん看護専門看護師の1人が常駐し、専門的な知識で医療内容についての相談にも対応。また経済的・社会的な相談を受けるがん専門の相談員と共に、気軽に相談を受けてくれるのです。そして医療面で治療開始時から活用したいのが、県のプロジェクトでもある「がん診療連携パス・私のカルテ」です。「地域の身近なかかりつけ医と手術や精密検査を担当する専門医、また薬局とのスムーズな連携を目指して、がん治療の細かな経過を記録するのが私のカルテで、県内のがん診療連携拠点病院で発行されます。がんは一度発症すると多くの医師やスタッフが関わり、また未長く経過を診ていくことが必要。他県にも同じような取り組みがありますが、熊本県では保険点数が加算されることもあってとても有効に運用されています。適用されるがんを患った時には是非活用して、完治を目指してほしいです」(岩瀬センター長。さらに緩和ケアに対応する私のノートも別途作成されており、患者はも

19病院でバックアップ 熊本県のがん医療体制

「厚生省では、患者数の多い胃がん・肺がん・肝臓がん・大腸がん・乳がんを5大がんとして、75歳以下の死亡率を下げることを目標にしています。それに従い、働き盛りの年齢でがんを患った方たちに対するバックアップ体制の充実を図るため、県とも目指しているんです」と岩瀬センター長。国民の約半数が経験するとされるがんに対して国は、各都道府県に熊大病院のような「がん診療連携拠点病院」を設置。さらに地域差をカバーし、がん医療の全体的なレベルアップを図るため「地域がん診療拠点病院(国指定)」と、熊本県がん診療連携拠点病院(県指定)を配置し、全19拠点でがん医療をサポートしているのが熊本県のがん医療体制です。そしてそれらががん診療連携拠点病院で行うがん治療は、ある特長を持ちます。「通常がんは臓器別、つまり診療科ごとに縦割りで治療を行います。が、画像診断の方法や使う抗がん剤、また再発した場合の緩和医療などで共通している部分も多いんです。そのため横断的な治療も非常に重要で、各病院でそのような医療を目指し実践しています」と岩瀬センター長。中でも県唯一の都道府県がん診療連携拠点病院であり研究機関でもある熊大病院では、2006年に開設されたがんセンターがその役割を担っています。



岩瀬 弘敬 先生
熊本大学附属病院 がんセンター長
乳がんの診断や治療を中心とした、熊本大学 乳腺・内分泌外科の教授。2006年からは初代がんセンター長に就任し、各診療科を跨いだ横断的な治療の確立を目指している。熊本県がん診療連携協議会幹事会幹事長。

【熊本県のがん診療連携拠点病院】

県内ではがん診療の中心となっているのが19の拠点病院で、各病院でがん相談支援センターの配置、医師や看護師など専門スタッフの充実を図り、地域のがん診療を支えています。もしがんを患ったときには、信頼できるかかりつけ医と拠点病院が連携することで、治療をサポートしてくれます。



都道府県がん診療連携拠点病院(国指定)

- 1 熊本大学医学部附属病院

地域がん診療連携拠点病院(国指定)

- 1 熊本市市民病院
- 2 熊本赤十字病院
- 3 人吉医療センター
- 4 熊本赤十字病院
- 5 熊本医療センター
- 6 済生会熊本病院
- 7 荒尾市民病院

熊本県がん診療連携拠点病院(県指定)

- 1 熊本中央病院
- 2 熊本再春荘病院
- 3 熊本総合病院
- 4 水俣市立総合医療センター
- 5 天草地域医療センター
- 6 天草中央総合病院
- 7 熊本地域医療センター
- 8 くまもと森都総合病院
- 9 高野病院
- 10 山鹿市民医療センター
- 11 熊本南病院

【中央区本荘】

熊本大学医学部附属病院

Kumamoto Daigaku Igakubu Fuzokubyojin
都道府県がん診療連携拠点病院であり、地域の開かれた病院として主治医以外の意見を提供するセカンドオピニオン外来も開設(30分10,800円)。全診療科が、かかりつけ医からの紹介による完全予約制。

Tel.096-344-2111(代表)

〒熊本中央区本荘1-1-1

※HPは「熊大病院」で検索

今後取り組む課題と がん治療で目指すもの

設立から11年を迎え、年間3000人近い患者ががん登録される熊大病院のがんセンターが、今後取り組むべき課題として「遺伝性のがんがあります。女優アンジェリーナ・ジョリーが予防的切除を行ったことで知られる遺伝性の乳がんや卵巣がん、また甲状腺がんなど、遺伝性のがんは発症前の遺伝子検査を受けるかどうかも含めたカウンセリングがとて重要。発展途上の分野ではありますが、デリケートな問題もはらむので、医療者側も積極的に学んで患者さんに対応することが必要だと考えています」。

実は岩瀬センター長自身、11年前に腎臓がんを患ったことで左腎臓を摘出した経験を持っています。当院の外来化学療法センターを見ても、リクライニングシートでゆっくりとテレビ鑑賞ができた、アメニティが揃っていたりと、以前とは比べられないほど充実しました。人間は誰かが死を迎えますが、がんの場合は突然命を失うことが多い脳疾患や心疾患と違って、残った時間で自分らしい最終ゴールを目指すことができます。がん医療、そしてがんセンターがもつ充実すれば、がんが死んでも悪くない。それが私の想いです。誰よりもがんという病を知る岩瀬センター長の言葉には重みがあります。